

東北生産性本部・復興支援

『労使セミナー・イン・福島』開催



<メンタルヘルス研究所・今井所長代理>



<福島在住の労使の皆さま>

7月20日(水)13時半より1時間半、台風6号の動きが気になる中、福島駅東口「ユニックスビル」5階第2会議室に於いて、70名の参加を得て、『復興支援 労使セミナー・イン・福島』が盛会理に開催された。

福島県内は、大地震・大津波・放射線被害・風評被害と、四重苦の環境下に置かれており、そこに住み、働く皆さまは、日々様々なストレスを抱えている。

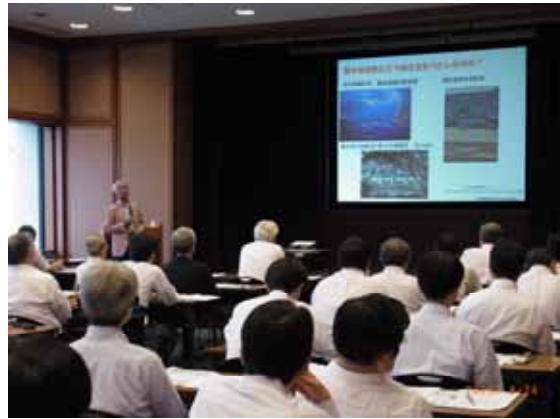
こうした状況を踏まえて、日本生産性本部メンタルヘルス研究所の今井保次所長代理を迎えて、「震災ストレスと心のケア」をテーマに開催した。

今井講師は、PTSD(外傷後ストレス障害)の発症メカニズム、ストレスに個人として、組織として、どう向き合うか、医師やカウンセラーの協力も得る必要があるが、そのベースは確りとした職場づくりであると、講演を締め括った。

今後の復興支援事業は、10月14日に仙台市内の江陽グランドホテルで開催予定の『東日本大震災・復興支援シンポジウム』。テーマは地域復興・原子力防災・心のケアであり多くの皆さまのご参加をお願いしたい。



< 7月28日仙台シンポジウム7月例会 >
 テーマ 日本政治の行方、政権の果たす役割
 講師 政治アナリスト 伊藤惇夫 氏



< 8月24日仙台シンポジウム8月例会 >
 テーマ 地球環境問題の本質
 講師 東北大学大学院教授 石田秀輝 氏



7月28日(木)15時45分より、本人16名、委任22名の出席を得て、第151回理事会を開催した。

議事は、今年度第一四半期事業報告、収支予算の補正、専務理事の選出であり、提案通り満場一致で承認された。

第一義 ~ 予期せぬ入院から見たもの ~

8月3日、日頃の不摂生が祟り、緊急入院する破目になった。ほぼ1ヶ月の入院生活であったが、色々なことを考えさせられた。先ず、点滴で9日間を過ごしたが、口から入る10日目の食事は、鮭の切り身が仙台牛に見えるほど、全てが美味しかった。千カロリーの点滴で生きていけるといっても、味覚の喜びに加えて、三食の食事は生活のリズムにとっては重要。二つ目は、人は身体を動かさないと、自然と節々が動きにくくなる。日常生活や仕事で身体を動かすということは正に生きることでありと実感。三つ目は、病院生活から我家に帰り、七色の虹を見たように日常生活には多彩な色があることに思い知らされた。痛い辛い思いをしたが、多くの人に支えられ、当たり前の本質が見えたように思う。『健康に優るものなし』(記S・S)